

「主の靈がサムソンを動かした。」 士師記 16 章 25~31 節

サムソンは、聖書の中でも特異な存在です。決して、信仰深くはなく、祈り深くもなく、感情的で情欲に溺れ、頑固で喧嘩早く、力任せの暴力漢でした。信仰深いというわけでもないのですが、自分が窮地に陥ると神に助けを求め、助けられるとカラッと忘れて力任せに人を支配するのでした。敬虔な信仰者にとつては、苛立つような振る舞いと人間性です。

サムソンが生まれたのは、「イスラエルの子らは、主の目に惡であることを重ねて行つた。そこで主は四十年間、彼らをペリシテ人の手に渡された。」（士師記 13・1）という状況でした。

マノアというダン部族の妻に主の使いが語り掛け、「今後あなたは気をつけよ。ぶどう酒や強い酒を飲んではならない。汚れた物をいつさい食べてはならない。見よ。あなたは身ごもつて男の子を産む。その子の頭にかみそりを当ててはならない。その子は胎内にいるときから、神に献げられたナジル人だから。彼はイスラエルをペリシテ人の手から救い始める。」（同 4）と突然宣言しました。サムソン（神に仕える）と名づけられた子に「主は彼を祝福された。」（24）。

サムソンはペリシテ人の娘を妻に迎えると言つて、両親は反対します。「彼の父と母は、それが主による」とだとは知らなかつた。主は、ペリシテ人と事を起こす機会を求めておられたのである。（14・4）。私たちには平和や理解しあうこと願っていますが、神の御手の中で戦争や争い、そして事件が起こることもあるのです。何かといふと平和を祈る人もおりますが、それは自分にとつて都合の良いように願う未信者の願いです。全知全能で世界を統御される神は、人の罪や悪を把握した上で御心をなされるのです。終末が近づいていることを悟つたら、政治や経済を一喜一憂するのではなく、それに備えて「用心していなさい。」（マタイ 24・44）ということが大事です。もはや平和や繁栄は求めて人間の浅はかさで却つて馬鹿を見ることになるでしょう。

さて、サムソンの乱暴狼藉は続きます。ペリシテ人の妻の要求は、結果のところペリシテ人に対するサムソンの無謀な狼藉に繋がります。300匹のジャッカルの尾を繋いでたいまつを括り付けて麦畠やオリーブ畠を燃やしてしまふなどという狼藉をするのです。

支配者のペリシテ人の武力を恐れたユダの人々3千人がサムソンを責

縛り上げてペリシテ人に渡すと、サムソンは千人を打ち殺します。「そのとき、彼はひどく渴きを覚え、主を呼び求めて言つた。『あなたは、しもべの手で、この大きな救いを与えてくださいました。しかし今、私は喉が渴いて死にそうで、無割礼の者どもの手に落ちようとします。』すると、神はレビにあるくぼんだ地を裂かれたので、そこから水が出た。」（15・18）。神の偏愛ですね。私たちクリスチヤンも、神のえこひいきを求めても良いのです。先週の祈祷会に出た方は、私の常識はずれな願いを祈つてくれと伝えました。私は、神に特別扱いされていると信じています。サムソンには敵いませんが。

ペリシテ人の領主たちは美女デリラを利用してサムソンの力の秘密を探ります。美女デリラの色香に惑わされて眞実を言つてしまいます。「私の頭には、かみそりが当たられたことがない。私は母の胎にいるときから神に献げられたナジル人だから。もし私の髪の毛が剃り落とされたら、私の力は私から去り、私は弱くなつて普通の人のようになるだろう。」（16・17）。サムソンはナジル人「聖別された人」らしくない勇者ですが、それでも神はサムソンをナジル人として特別な力を注いでくださつていたのです。

クリスチヤンになるといふことも同様で、自分中心に生きてきたことを認め、主イエスの十字架の刑は自分の罪の贖いの為であると信じ、魂の救いを求めたならば、神は私たちを特別扱いされるのです。それをこの世の功績能力思考に惑わされて、自分はクリスチヤンの資格がないとか、神から祝福を受けることができないと惑わされてはいけないのです。

髪を剃られて力を失い、両目を抉り出されたサムソンですが、牢の中で髪の毛も伸び始め、力がよみがえつてきました。そして、28節の願いを神に呼び求め、ダゴン神の神殿の柱を倒し、多くのペリシテ人と領主たちを殺したのです。

「権力によらず、能力によらず、わたしの靈によつて」（ゼカリヤ 4・6）と主は言されました。神を信じ、聖靈に満たされることこそ、信仰者にとつて大事なことなのです。

1. 信仰に生きるキリストの弟子の養成

主の弟子は状況に左右されず聖霊に聞き従い、神を信じ人を信じて人々の救いと解放をもたらす。十字架に死んで神と共に生きるとは、自分と人々の罪からくる咎を覚悟し信仰と希望と愛とを持って福音の祝福の中に生きることである。キリストの弟子の養成こそ教会の使命である。

2. 真理と祈りと讃美に満ちた信仰生活の指導

聖書の教え、真理は人を自由にする。祈りは問題や悩みを解決し、神の御心を確認する。讃美は癒しと喜びと力を与える。教会はそれらを教え指導し、互いの交わりの中で模範を造り出していく。

3. キリストを頭として愛によって結び合わされた共同体の形成

教会には多種多様な人々が神によってこの世から召し出されてくる。この信者を整え、神への奉仕という使命を果たすように導くには、キリストの弟子として十字架を負い主に従う指導者層が確立されなければならない。整えられ愛し合い一致した教会こそ神の栄光が現され成長する。

4. 隣人に対する愛に基づいた執り成しと伝道の実践

神を愛する人は人をも愛し、行いを伴う信仰を持つ。真理を知らず罪と咎によって苦しんでいる人々を愛し、執り成し、福音を伝えることによってこそクリスチヤンは成長し、祝福される。

5. 地域と社会に貢献する魅力的な教会員の歩みと家族形成

教会と教会員の活動・事業・啓発運動を展開し、社会に影響を与えながら、同時に愛し合う家族を形成し、接する人々に福音を現していくことが、日本のリバイバルに必要であると私たちは信じる。

今週の聖書

士師記 16:25 彼らは上機嫌になったとき、「サムソンを呼んで来い。見せ物にしよう」と言って、サムソンを牢から呼び出した。彼は彼らの前で笑いものになった。彼らがサムソンを柱の間に立たせたとき、

16:26 サムソンは自分の手を固く握っている若者に言った。「私の手を放して、この神殿を支えている柱にさわらせ、それに寄りかからせてくれ。」

16:27 神殿は男や女でいっぱいであった。ペリシテ人の領主たちもみなそこにいた。屋上にも約三千人の男女がいて、見せ物にされたサムソンを見ていた。

16:28 サムソンは【主】を呼び求めて言った。「【神】、主よ、どうか私を心に留めてください。ああ神よ、どうか、もう一度だけ私を強めてください。私の二つの目のために、一度にペリシテ人に復讐したいのです。」

16:29 サムソンは、神殿を支えている二本の中柱を探り当て、一本に右手を、もう一本に左手を当てて、それで自らを支えた。

16:30 サムソンは、「ペリシテ人と一緒に死のう」と言って、力を込めてそれを押し広げた。すると神殿は、その中にいた領主たちとすべての民の上に落ちた。こうして、サムソンが死ぬときに殺した者は、彼が生きている間に殺した者よりも多かった。

16:31 彼の身内の者や父の家の者たちがみな下って来て、彼を引き取り、ツォルアとエシュタオルの間にある父マノアの墓に運び上げて葬った。サムソンは二十年間イスラエルをさばいた。

Jdg 16:25 So it happened, when their hearts were merry, that they said, "Call for Samson, that he may perform for us." So they called for Samson from the prison, and he performed for them. And they stationed him between the pillars.

16:26 Then Samson said to the lad who held him by the hand, "Let me feel the pillars which support the temple, so that I can lean on them."

16:27 Now the temple was full of men and women. All the lords of the Philistines were there-about three thousand men and women on the roof watching while Samson performed.

16:28 Then Samson called to the Lord, saying, "O Lord God, remember me, I pray! Strengthen me, I pray, just this once, O God, that I may with one blow take vengeance on the Philistines for my two eyes!"

16:29 And Samson took hold of the two middle pillars which supported the temple, and he braced himself against them, one on his right and the other on his left.

16:30 Then Samson said, "Let me die with the Philistines!" And he pushed with all his might, and the temple fell on the lords and all the people who were in it. So the dead that he killed at his death were more than he had killed in his life.

16:31 And his brothers and all his father's household came down and took him, and brought him up and buried him between Zorah and Eshtaol in the tomb of his father Manoah. He had judged Israel twenty years.